

## 【報告】

### 平成27年度情報リテラシー教育活動実施報告

：教員との連携の取り組み

匂坂佳代子（学術情報課レファレンス係）

一橋大学学術・図書部

#### 1. はじめに

大学図書館においては、設立主体や館の規模を問わず情報リテラシー教育が広く実施されている。国の政策として、これからの大学図書館に求められる役割の一つに学修支援、情報リテラシー教育が掲げられていることもあり<sup>1</sup>、様々な大学図書館で実施結果が報告され<sup>2</sup>、ガイドラインが策定<sup>3</sup>されるなど、情報リテラシー教育は大学図書館の新しい機能の一つとして定着している。

一橋大学附属図書館（以下、「附属図書館」）では、新入生を対象としたガイダンスを平成14年以前より実施してきたほか、ゼミ単位での文献の探し方ガイダンスを平成16年頃より開催するなど、一橋大学（以下、「本学」）の特色である少人数制の教育に添った形での情報リテラシー教育を実施してきた。しかし、「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」<sup>4</sup>においても示されるとおり、現在の大学教育においては、特に学士課程教育で、講義を受講することに重きが置かれる受動的学修から物事を主体的に捉えられる能動的学修への質的転換が必要であり、それに伴い学生の主体的な学修のベースとなる図書館機能の強化が提言されるなど、昨今の大学を取り巻く環境の変化は急速であり、それに対応するためには、今まで実施してきた内容に加え、大学の教育により直接的に関与していく形での情報リテラシー教育が求められていると思われる。

本報告では、まず一橋大学附属図書館で情報リテラシー教育活動を行っている組織である「情報リテラシー教育ワーキング・グループ（以下、「リテラシーWG」）」の概要を述べ、平成27年度に一橋大学附属図書館で実施した情報リテラシー教育の内容を振り返るとともに、特に平成27年度に学内教員との連携企画として新規に実施した「英語論文の書き方ガイダンス」について詳しく報告する。

#### 2. リテラシーWG

一橋大学附属図書館では、平成16年に「附属図書館情報リテラシー教育ワーキンググル

ープ設置要項」を定め、係横断型で職員が協力体制を組むリテラシーWGを結成し活動を行ってきた。平成26年には、上記設置要項をより現状に即したメンバー構成とするよう見直し「情報リテラシー教育WG設置要領」を定め、一連の情報リテラシー教育活動を実施している。リテラシーWGは、以下のとおり組織し運営している。

#### <目的>

情報・資料の探し方やレポート・論文の書き方等、学生の情報リテラシー向上に関する事項について検討し、実施する。

#### <組織>

- ・ 学術情報課レファレンス係長（リテラシーWGの主査を務める）
- ・ 学術情報課レファレンス係員
- ・ 研究開発室員
- ・ 学術情報課利用者サービス係
- ・ その他学術・図書部の職員 若干人

このリテラシーWGで本学ならではの特徴と言えるのが、研究開発室員の参加である。附属図書館研究開発室は、附属図書館の助教1名、専門助手1名、社会科学古典資料センターの専門助手2名の計4名の教員で構成される。リテラシーWGに教員が参加することにより、教員の専門知識と研究活動、図書館職員の知識とノウハウを融合し、より研究に即し、より実践的な内容での情報リテラシー教育の企画立案が可能となっている。また、各係から若手職員が交代で参加するため、リテラシーWGは学術情報の知識や学修支援のスキルを磨く場となっている。

### 3. 平成27年度に実施した情報リテラシー教育活動

#### 3.1. 夏学期の活動について

##### 3.1.1. 附属図書館が企画し実施したガイダンス

夏学期に附属図書館が企画し実施したガイダンスの内容及び参加人数は、以下のとおりである。

(表1) 夏学期に実施したガイダンスの内容及び参加人数

ガイダンス名	実施時期	実施場所	担当者	主な対象者	実施内容	参加人数
春季ガイダンス	4月3日(金)～14日(火)	附属図書館	附属図書館職員、えんのした(学生サークル)	新入生(学部1年生・修士1年生)	図書館ツアー(学部1年生・修士1年生向け) 館内の案内、基本的な図書館サービスの利用方法、資料の探し方等を説明。1コマ30分を13回開催。	100
	4月3日(金)～10日(金)	附属図書館会議室	附属図書館職員	大学院学生	大学院生向けガイダンス HERMESの紹介、学術論文(和文・英文)の探し方、新聞記事の探し方、情報・資料の収集に関する図書館webサイトや大学院生向けサービスをセットで説明。1コマ1時間を12回開催。	140
	4月13日(月)～16日(木)	附属図書館会議室	研究開発室教員	大学院学生	修論の書き方ガイダンス 実体験を交えながら修論執筆のポイントを説明。1コマ45分を8回開催。	62
		附属図書館会議室	附属図書館職員	学部学生、大学院学生	新HERMESガイダンス リニューアルされたHERMESを使った検索方法、各種サービスの利用方法を説明。1コマ30分を3回開催。	8
オンデマンド・ガイダンス	4月7日(火)～8月7日(金)	講義室、附属図書館会議室、グループ学習室等	レファレンス係職員、研究開発室専門助手	学部学生、大学院学生	研究科別の実施回数 ・商学研究科・商学部:3回 ・経済学研究科・経済学部:4回 ・法学研究科・法学部:9回 ・社会学研究科・社会学部:4回 ・言語社会研究科:1回 ・情報基盤センター:2回	実施回数 23
夏のガイダンス	6月10・12・16・18・22日	東キャンパス1208室	研究開発室教員	学部1・2年生	レポートの書き方ガイダンス レポートの構成や先行研究の引用方法など、レポートを書く上での基本的事項を説明。	32
	6月11・15・17・19・23日		附属図書館職員		図書館活用ガイダンス「知って得する! 図書館活用法」 図書館所蔵資料の検索と入手の方法及び、CiNii Articlesを使った論文の検索と入手の方法を説明。	14
データベース講習会	6月26日(金)	附属図書館会議室	レファレンス係職員	学部学生、大学院学生	LexisNexis Academic ビジネス情報、法律情報、医薬情報等を収録した総合情報データベース	8
	7月3日(金)	情報教育棟演習室		学部学生、大学院学生	日経NEEDS Financial Quest 企業財務、株式・債券、マクロ経済、産業統計に関するデータベース	17
卒論作成に関するガイダンス	7月6日(月)	附属図書館会議室	研究開発室専門助手、APLAC院生チューター	学部3・4年生	卒論の書き方セミナー＋卒論の執筆体験談(商学研究科博士後期課程)	5
	7月8日(水)				卒論の書き方セミナー＋卒論の執筆体験談(社会学研究科博士後期課程)	6
	7月10日(金)				卒論の書き方セミナー＋卒論の執筆体験談(法科大学院専門職学位課程)	5



写真1：「春季ガイダンス」実施風景

### 3.1.2. 授業の一環として実施したガイダンス

夏学期に授業の一環として実施したガイダンスの内容及び参加人数は、以下のとおりである。

(表2) 夏学期に実施した「学生生活の技法」の内容及び参加人数

ガイダンス名	実施時期	実施場所	担当者	主な対象者	実施内容	参加人数
学生生活の技法	5月7日(木)	第2講義棟310教室	研究開発室助教	学部学生	レポートの書き方に関する概論を講義。	26
	5月14日(木)	情報教育棟21室、附属図書館	附属図書館職員		HERMESとCiNii Articlesを使った情報・資料の探し方について講義した後、附属図書館内で検索実習。	23
	5月21日(木)	第2講義棟310教室	研究開発室専門助手		レポートの体裁の整え方や典拠情報の示し方を講義した後、サンプルレポートを使ったグループワークを実施。	25
	6月4日(木)	第2講義棟310教室	附属図書館職員、研究開発室教員		履修者が小グループに分かれて、各自が書いたレポートを使ったグループワークを実施。	25



写真2：「学生生活の技法」6月4日(木)実施風景

参加人数は、のべ99名であった。

上記4コマを担当するに当たっては、授業を担当している教員と、附属図書館研究開発室助教及びレファレンス係長にて事前に打ち合わせ、リテラシーWGにて実施した。なお、上記授業の数コマを附属図書館で担当するという取り組みは、平成21年度より継続して実施している。

大学図書館では、通常、授業のコマを担当しガイダンスを実施する場合、図書館資料を含め学術情報の入手について講義するという形式が多いと思われるが、上記「学生生活の技法」においては、それに加え、受講した学生にレポートの書き方の講義を行った上で実際にレポートを提出させ、グループごとに読み合い批評するというグループワークも含まれる。更に、学生は批評を参考にしてレポートを修正、再提出し、最終的な評価は再提出されたレポートが対象となる。そのため、「学生生活の技法」は、学生にとっては実践的な内容であるとともに、リテラシーWGに所属する附属図書館職員にとってはレポートの書き方を実地で指導する場にもなっている。

なお、こうした取り組みができるのは、リテラシーWGに研究開発室の教員がメンバーとして含まれる点大きい。特にグループワークの実施においては、基本的に研究開発室教員と附属図書館職員とがペアになりグループ内の討論を進行するため、附属図書館職員は研究開発室教員から、討論の進め方や学生の指導方法について学ぶ点が多い。

### 3.2. 冬学期の活動について：附属図書館が企画し実施したガイダンス

冬学期に附属図書館が企画し実施したガイダンスの内容及び参加人数は、以下のとおりである。なお、網掛けした4つのガイダンスは、平成27年度に新規に実施した。

(表3) 冬学期に実施したガイダンスの内容及び参加人数

ガイダンス名	実施内容	実施日時	実施場所	講師	主な対象者	参加人数
データベースの 使い方ガイダンス	Web of Science	10/7(水)	情報教育棟 演習室22	トムソン・ロイター	学部3年生～ 大学院生	10
	日経NEEDS Finacial QUEST	10/13(火)		日経メディアマーケティング株式会社		9
	LexisNexis Academic	11/10(火)		レクシスネクシス・ジャパン株式会社		5
	D1 law	11/18(水)		第一法規株式会社		7
	Juris Online	11/25(水)		エヌオンライン社		7

卒論の書き方ガイドランス	卒論の書き方セミナー＋卒論の執筆体験談	10/14日(水)	附属図書館会議室	研究開発室専門助手、APLAC院生チューター(社会学研究科博士後期課程)	学部3年生～学部4年生	7
英語論文の書き方ガイドランス	海外のジャーナルに英語論文の投稿を行うポイント解説	10/16(金)	附属図書館会議室	越智博美(商学研究科教授)	大学院生	7
文献管理ツールガイドランス	Mendeley	10/21(水)	附属図書館会議室	エルゼビア・ジャパン株式会社	大学院生	11



写真3:「データベースの使い方ガイドランス」実施風景

また、夏学期に実施した「学生生活の技法」4コマについて、冬学期にも同一の内容で実施した。なお、参加人数はのべ92名だった。夏学期の参加人数は99名であり、ほぼ同程度の参加人数があった。

#### 4. 学部・研究科所属教員との連携事例

本項では、3.2.「冬学期の活動について」のうち、平成27年度に学部・研究科所属教員(以下、「教員」と連携する形で新規に実施した「英語論文の書き方ガイドランス」を取り上げ、詳しく報告する。

##### 4.1. 企画の経緯

平成27年5月に実施した第2回情報リテラシーWGにて、本学はグローバル人材の育成に重点的に取り組んでいることから、英語論文の書き方について入門的なセミナーを実施できればよいとの意見があった。平成26年度に国際課が同様の企画を実施しており、今年度も実施するのであれば連携できればよいのではないかと、との意見があったため、国際課と調整し、平成28年度以降の連携実施を検討することとした。

その後、レファレンス係から国際課に確認したところ、平成26年度まで“Workshop on Basic Academic Writing in English”を実施していたが、外国人担当教員の帰国に伴い平成27年度は実施の目途は立っていないとの回答だった。そのため、リテラシーWGでは直接教員

と連携する形に企画を修正することとし、レファレンス係において企画案を作成、研究開発室専門助手の協力を得て企画案を練り上げ、教員へ打診することとした。

#### 4.2. 事前準備

企画案作成に当たり、他大学における同様のガイダンス実施例を調査した。その結果、国内の主だった大学で英文ライティング支援に重きが置かれている事例が判明したため、グローバル人材育成を重点課題とする本学においては尚更必要である、との認識を持った。

Web上で参照した実施例は、以下のとおりである。

- ・東京大学：駒場ライターズスタジオ in 本郷 特別出張講座 2014<sup>5</sup>
- ・早稲田大学：ライティング・センター、「学術的文章の作成」授業<sup>6</sup>
- ・広島大学：広島大学ライティングセンターによる「英語論文の書き方：Technical Writing in English」<sup>7</sup>
- ・名古屋大学：名古屋大学「科学論文英語ライティング」セミナー<sup>8</sup>

教員選定に当たっては、本学で英語の講義を担当している教員が「英語アカデミック・ライティングの基礎」を刊行したことを契機として、英語科教員に対して協力を打診し、講師を依頼することとした。

レファレンス係において企画案を作成し、研究開発室専門助手の助言を元に企画案を策定した。確定した企画案については、参考資料1を参照のこと。

講師決定後、メール等でやり取りを行い、企画の肉付けを行った。やり取りの中で、内容について調整したほか、広報の段階で附属図書館 Facebook 用に 400 字程度のコメントを依頼した。

実施に向けて、レファレンス係で「冬ガイダンス準備要領（英語論文の書き方ガイダンス）」を作成し、担当者に配布した。担当者は、レファレンス係長及び研究開発室専門助手の2名とした。「冬ガイダンス準備要領（英語論文の書き方ガイダンス）」については、参考資料2を参照のこと。

#### 4.3. 実施

ガイダンスは、10月16日（金）10:35-12:05に、附属図書館会議室において実施した。

当日の講義は、「英語論文の書き方：英文ジャーナルにチャレンジするためには」という講義名で、まずジャーナル論文（以下、「論文」）とはという定義を示し、その上で論文の定型的な構成や、引用の方法や剽窃防止など論文作成時の注意点の説明があった。更に、英文ジャーナルへ投稿するための書式や倫理規定、投稿ジャーナル選定のポイントについて説明があった。最後に Case1～5 として論文投稿の事例を練習問題として付し、事例は多重投稿に当たるのかを参加者に問い、問いに対する解説があった。

講義では、講師から、日本語でも英語でも論文の構成や注意点は基本的には同じであるとの説明があったが、実際に英文ジャーナルに掲載された論文を見ながらパラグラフの構成の解説があったり、多重投稿について具体的な事例に基づき解説があった点が、特に実践的であり、今後英文ジャーナルへ論文投稿を検討する参加者にとって、論文作成の一助となったと思われる。



写真4：「英語論文の書き方ガイダンス」実施風景

参加人数について、事前の参加申込受付では8名の申込があったが、当日は急な事情等によりキャンセルがあったため、7名（内3名は教職員）の参加となった。少人数ではあったが、その分参加者各人の専門分野を考慮した講義内容となった。



#### 4.4. アンケート結果

参加者より回答のあったアンケート結果を、以下に記す。

<身分・学年別>

博士1年	2
博士3年	1
修士1年	1
教職員	3

<所属別>

社会学部・研究科	0
経済学部・研究科	0
商学部・研究科	2
法学部・研究科	0
言語社会研究科	2
その他	3

<満足度>

とても役に立った	6
役に立った	0
まあまあ役に立った	0
それほど役にたたなかった	0
全然役に立たなかった	0
(無回答)	1

<自由記述(一例)>

- ・とても実践的で役に立つ内容だった。授業でなかなか得られない情報が得られてとても良かった。
- ・英語で書く修論に向けて、また英文ジャーナルの編集の勉強のため参加した。本当にわかりやすく、今日は参加をしてよかった。
- ・査読現場・事例問題の話がとても面白かった。英語ならではの、話が聞けるとなおい良かった。

以上のアンケート結果より、参加者は学生4名の参加者全員が大学院生であり、内3名は博士課程の学生であったこと、また教職員も含めて6名が「とても役に立った」と回答していることから、主に研究者を目指す学生に対して実践的かつ有効な講義内容を提供できたことが明らかとなった。満足度が高かった要因としては、英文ジャーナルの編集に携わっている本学教員が講師となり、英文ジャーナルへの投稿について講義する、という講義の質の高さと、実践に即した内容であったことが大きいと思われる。

#### 4.5. 成果

学長見解「一橋大学強化プラン(1):3つの重点事項」<sup>9)</sup>に示されているとおり、本学では質の高いグローバル人材の育成が重点課題である。また、研究機関ランキングに英語論文の被引用数が使用される<sup>10)</sup>等、英語論文の発表数と被引用数が機関の貢献度を示す重要な指標とされている現在、海外の英文ジャーナルへの投稿と掲載は、研究者個人の課題だけではな

く機関全体の課題として捉える必要がある。

平成27年度に実施した情報リテラシー教育活動においては、冬学期に新規に4つのガイダンスを実施し、その中でも「英語論文の書き方ガイダンス」は、グローバル人材の育成という文脈で本学の教員と連携しガイダンスを実施する、という取り組みとなった。

附属図書館がグローバル人材の育成のため何ができるのかを考えた時、英語論文の執筆や海外英文ジャーナルへの投稿について、教員と連携しながらコミットしていくという方法は、本学の重点課題へのアプローチ及び教員連携という2つの側面において、大学の教育により直接的に関与していくという趣旨に十分沿うものであると考えられる。更に情報リテラシー教育で実施するガイダンスでは、多くは附属図書館職員と研究開発室教員とが講師となる形だったが、新たに学部・研究科所属の教員を講師とするガイダンスの実施は、今まで行ってきた情報リテラシー教育活動の延長として捉えられるため、事務的なノウハウも蓄積されており、学部・研究科所属教員の協力さえ得られれば、比較的实施しやすい企画であると言える。一方で、参加者数をどのように伸ばしていくかについては、今後の課題である。

## 5. これまでとこれから

第2期中期目標では、I.1(2)③において「学生の情報リテラシー教育支援のため、学習環境を整備する」と記されており、附属図書館はその枠組みの中で情報リテラシー教育活動を実施してきた。第2期中期目標中に実施した情報リテラシー教育活動の成果を、以下に示す。

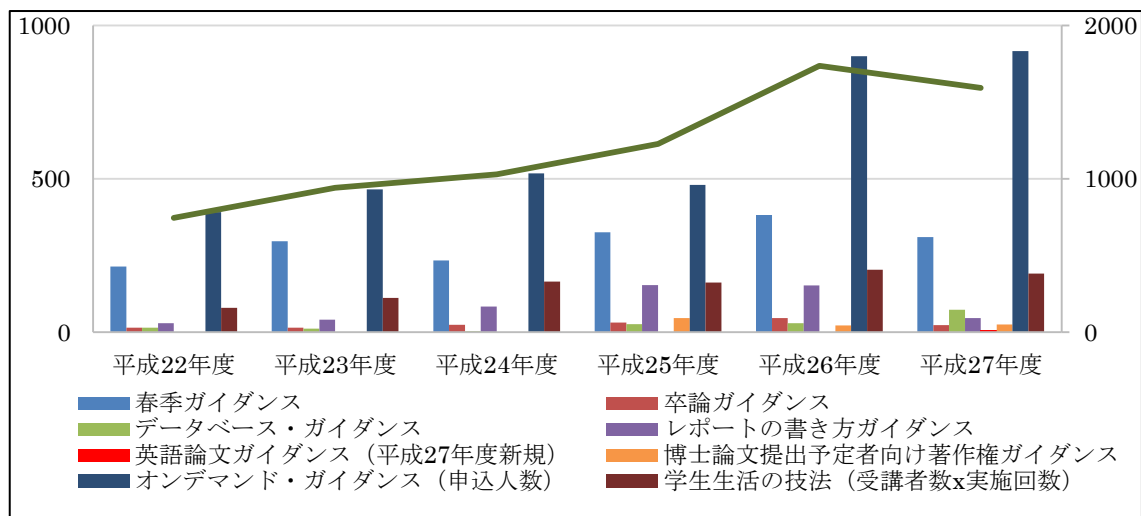


図1 第2期中期目標中に実施した情報リテラシー教育活動の内容及び参加人数

図1からは、平成26年度までは参加者数が上昇した一方で、平成27年度は参加者数が減少したことが読み取れる。平成27年度の減少の要因としては、春季ガイダンス及びレポートの書き方ガイダンスの参加者数の減少が大きい。平成26年度とほぼ同時期に同内容を実施しているにも関わらず、平成27年度の参加者数が減少した結果となったことは、背景として留学の推進やグローバル化のための多様な研修プログラムを大学全体で推進していること等による学生の多忙化に加え、多くの授業のレポート提出期限の後にレポートの書き方ガイダンスを設定した等、授業のスケジュールと連動していなかったことがあると推察される。

特に平成29年度以降、学期制改革へ向けて、大学教育全体がグローバル化へ対応するよう移行していくことが見込まれる現在、附属図書館の情報リテラシー教育も大学全体の流れに対応し、今まで実施してきた附属図書館独自のガイダンスから、より本学の教育活動と連携し、必修授業の中に情報リテラシー教育の内容を組み入れる等、直接的に関与していくガイダンス実施へ移行していく必要があると思われる。そのために、本学の教員や学内関係部署とどのように連携できるのか、協力が仰げるのかを調整し企画を立て、学内連携を進めることが、附属図書館が今後重きを置くべき方向性であると考えられる。

---

<sup>1</sup>科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会。“大学図書館の整備について（審議のまとめ）：変革する大学にあって求められる大学図書館増像”。文部科学省. 2010.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm), (参照 2016-01-18).

<sup>2</sup>例として以下の1点を挙げる。

茂出木理子. 学習支援としての情報リテラシー教育：これまでとこれから. 大学図書館研究. 2013, no.100, p.53-64.

[http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/80083/2/modeki\\_03860507\\_v100\\_53.pdf](http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/80083/2/modeki_03860507_v100_53.pdf), (参照 2016-01-18).

<sup>3</sup>“高等教育のための情報リテラシー基準：2015年版”。国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会.

<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>, (参照 2016-01-18).

<sup>4</sup>科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会。“学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）”。文部科学省. 2013.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/25/08/1338778.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/08/1338778.htm), (参照 2016-01-18).f

<sup>5</sup>“駒場ライターズスタジオ in 本郷 特別出張講座 2014”。東京大学.

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/koshukai/201412eigo.pdf>, (参照 2016-01-21).

<sup>6</sup>“「学術的文章の作成」授業”。早稲田大学. <http://www.cie-waseda.jp/awp/jp/od/>, (参照 2016-01-21).

<sup>7</sup>“英語論文の書き方：Technical Writing in English”。広島大学.

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/wrc/event/seminars/2015/201511/>, (参照 2016-01-21)

- 
- 8 “「科学論文英語ライティング」セミナー〈実践編〉”。名古屋大学。  
<http://campusasia.apchem.nagoya-u.ac.jp/wordpress/?p=1303>, (参照 2016-01-21)
- 9 “学長見解「一橋大学強化プラン(1)：3つの重点事項」”。蓼沼宏一。  
<http://www.hit-u.ac.jp/guide/message/150323.pdf>, (参照 2016-01-18).
- 10 “トムソン・ロイター社、科学・技術・経済に影響を与えている革新的な100の大学を  
発表 日本からは9大学が選ばれる”。カレントアウェアネス-R. 2015-09-18.  
<http://current.ndl.go.jp/node/29471>, (参照 2016-01-18).

<参考資料 1> 「英語論文の書き方ガイダンス」企画案

1. 概要

本学はグローバル人材の育成とともに国際的な学術論文の発信を大学強化プランに掲げており、今後グローバル化する社会で研究者として通用する能力を育てるため、附属図書館としてもそれに貢献するべく、新規に英語論文の書き方ガイダンスを実施。附属図書館と英語科教員との共催とする。

2. 主な対象者

大学院生

英語を母語とせず、これから英語で論文を執筆する予定の大学院生。想定人数は30名程度。

3. ガイダンス時期、実施内容

10月～11月に、90分のガイダンスを実施。(時期については要検討)

4. 構成

一橋大学英語科教員を講師とする。

日本人講師と外国人講師による2部構成を想定。

日本人講師は英文論文作成の一般的なプロセスを講義、外国人講師は、ネイティブではない学生が英語論文を執筆する際の注意点と解決のヒントを解説。

5. スケジュール

8月：講師依頼(附属図書館→英語科教員)

スケジュール、ガイダンス内容の打合せ(附属図書館、英語科教員)

9月：附属図書館情報リテラシーWGにて運用検討(附属図書館)

9月～10月：広報開始(院生ML、BELL、附属図書館SNS、立て看板、学内掲示)(附属図書館。英語科教員より写真、コメント等をいただく)

10月～11月：ガイダンス実施(附属図書館、英語科教員)

## 6. 分担

- ┌ ガイダンスのコンテンツ提供：英語科教員
- └ 運営にかかる事務的手続き：附属図書館

## 7. 他大学での実施例

東京大学：駒場ライターズスタジオ in 本郷 特別出張講座 2014

早稲田大学：ライティング・センター、「学術的文章の作成」授業

広島大学：広島大学ライティングセンターによる「英語論文の書き方：Technical Writing in English」

名古屋大学：名古屋大学 「科学論文英語ライティング」 セミナー

### <参考資料2> 「冬ガイダンス準備要領（英語論文の書き方ガイダンス）」

#### 1. 前日まで（レファレンス係、各担当者）

- 配布資料を準備する（事前に講師より連携された資料をレファレンス係にて○部印刷）
- 掲示用資料（会場案内、写真撮影許諾）を1部ずつ印刷する
- 無線LANのログイン/ログアウト案内、アンケートページ案内の資料を電子情報係から借り受けたUSBメモリにコピーしておく

#### 2. 開始60分前

- 下記を1階レファレンス係で受け取り、作業内容を確認する
  - 配布資料 約○部
  - 掲示用資料（会場案内、写真撮影許諾） 各1部
  - 掲示用セロハンテープ
  - 受講者名簿（兼参加人数確認シート） 1部
  - 冬ガイダンス準備要領（英語論文ガイダンス） 1部
  - 講師用PC 1台
  - 記録用デジタルカメラ
  - USBメモリ
  - 附属図書館会議室の鍵

### 3. 開始 55 分前

- 附属図書館会議室へ移動し、会場の準備をする。
  - 机をスクール形式に配置する（横3列×縦4～5列 ※参加人数に応じて調整）
  - 掲示用資料を掲示する
  - 受講者名簿を入り口近くに設置する
  - 机上に配布資料を配布する
  - マイク・アンプを設置し、電源を入れる

### 4. 開始 10 分前

- 講師が1階事務室に来訪するので、会場へ案内する

### 5. 開始まで

- 学生が入室する際に受講者名簿にチェックしてもらう  
※飛び入り参加可。その場合、受講者名簿に記名してもらう
- 各自無線 LAN にログインし、PC 設定を行うよう学生に案内する
- 学生が無線 LAN ログインに戸惑っていたら、各担当者が対応する

### 6. 開始時間

- ガイダンスの開始  
※適宜操作補助や、記録のための写真撮影などを行う

### 7. 終了 5～10 分前

- 講師によるガイダンス終了
- 受講者名簿を確認し、参加者数を記入（明らかに教職員である場合のみその他でカウント）
- アンケートページ案内 PPT の表示、回答を依頼（附属図書館 HP の受講者アンケートフォームから）
  - 回答が終わった人は無線 LAN からログアウトするようにアナウンス（適宜 PPT 表示）

### 8. 終了時刻

- 講師を見送る
- 会場を片付ける  
□ プロジェクタ & スクリーン片付け

- マイク・アンプ片付け
- 配布用資料、掲示用資料を回収する
- 机の配置を元に戻す（口の字型。講師用机周辺に凶あり）
- 照明・空調を落として退出する（入り口は全て施錠）
- 持ってきたツール1式を1階レファレンス係へ返却する

#### 9. 備考

- それぞれの担当で当日準備～片づけを行う
- ※PC 準備等に人手が必要な場合は、適宜助っ人を要請する

#### [Report]

*Report on the information literacy service in 2015 : an approach to the cooperation with teaching staff*

Sagisaka, Kayoko.

Reference Service Section, Academic Services Division, Department of Library Affairs,  
Hitotsubashi University